

お知らせ

INFORMATION



No.2022-05

2022 年 2 月

病体生理研究所

新規受託開始のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当研究所をご利用いただきまして誠に有り難うございます。

この度、下記検査項目におきまして、新たに受託を開始させて頂くことになりましたので、ご案内申し上げます。

何卒、ご利用賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

【新規受託項目について】

◆ 抗リン脂質抗体（APL）パネル〔38135〕

…検査実施施設 M

※項目情報裏面参照

《受託開始日》：2022 年 2 月 28 日（月）受付分より

【新規項目情報】

項目名称	抗リン脂質抗体（APL）パネル		
コード	38135		
検体材料	血清 0.6mL		
保存安定性	絶凍		
検査方法	CLIA		
基準値・単位	20.0 以下 U/mL		
報告様式	抗 CL IgG	左記 4 種の抗リン脂質抗体を ご報告いたします。	
	抗 CL IgM		
	抗 β 2GP1 IgG		
	抗 β 2GP1 IgM		
所要日数	4～8 日		
実施料（区分）	696 点（D014 27 232 点×3 回分）		
判定区分	144 点（免疫）		
備考	* 検査実施料に関わる留意事項 ・抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として、抗カルジオリピン抗体および抗 β 2 グリコプロテイン I 抗体の測定を行った場合に、抗カルジオリピン抗体の所定点数 の 3 回分を合算した点数を準用して一連の治療につき 2 回に限り算定できる。 ・抗カルジオリピン β 2 グリコプロテイン I 複合体抗体、抗カルジオリピン抗体、および 本検査のいずれか 2 つ以上を併せて実施した場合は、主たるものののみ算定できる		

抗リン脂質抗体症候群（APS）は、血中の抗リン脂質抗体（aPL）により多様な病態を引き起こす自己免疫疾患群です。APS は aPL により血液が凝固傾向になり、動静脈血栓症や流産・不育症などの妊娠合併症の原因となる後天性血栓性素因と定義されています。

APS には単独で発症する原発性と自己免疫疾患である全身性エリテマトーデス（SLE）に合併するものがあり、その比率はほぼ半々と考えられています。aPL の主要対応抗原は、陰性荷電を持つリン脂質と結合した β 2 グリコプロテイン I（ β 2GPI）とプロトロンビンであることが明らかになっており、診断用検査手法としては抗体自体を測定する免疫学的方法と、ループスアンチコアグラント（LAC）を凝固時間の延長により検出する機能的方法に大別されます。

免疫学的方法による aPL の抗体系検査には抗カルジオリピン抗体（aCL）や抗 β 2GPI 抗体などがありますが、従来保険適用されたものは aCL IgG のみであったため、総合的な評価が困難であるという側面がありました。

本検査は主要な aPL をアイソタイプ別にパネル検査として抗カルジオリピン抗体 IgG と IgM および 抗 β 2GPI 抗体 IgG と IgM の4 項目を同時に測定するもので、2020 年7 月に保険適用となりました。これにより、国際血栓止血学会が定める分類基準および難病情報センターが定める診断基準に沿った検査が可能となり、これらを一連で測定することは APS の診断に有用と考えられます。

参考文献：出口雅士，他：産科と婦人科 87（suppl）：230-235，2020.

渥美達也：腎と透析 84（4）：572-578，2018.

以上